

発刊にあたって

自然環境保全センターは、森林を中心とした自然環境の保全や再生を推進するため、研究、普及、行政部門を備えた中核組織として、平成12年度に創設されました。森林環境に関わる県民や行政の期待・要望は、全国レベルの問題から地域に特化した問題など様々ですが、当センターでは研究機関や大学及び行政機関等多くの関係者のご支援、ご協力を得ながら着実に対応してまいりました。

一方、深刻化する丹沢大山の自然環境の悪化に対しては、丹沢大山に関わる民間団体や企業など幅広い県民の参加による丹沢大山総合調査実行委員会が主体となり、平成16年度から2年間にわたり丹沢大山総合調査を実施しました。その調査結果を総合的に解析し、自然再生の基本的な方向と新たな仕組みを「丹沢大山自然再生基本構想」としてとりまとめ、平成18年7月30日に実行委員長から神奈川県知事に対し、政策提言を行いました。

神奈川県では、この政策提言を踏まえ、それまでの丹沢大山保全計画の内容を大幅に見直すとともに、名称も「丹沢大山自然再生計画」に改め、自然再生に積極的に取り組むこととしました。当センターもブナ林の再生、自然公園の適正利用、野生生物の保護管理、あるいは県有林の整備や管理など様々な事業に取り組むとともに、自然再生を総合的に推進するための基盤整備として、自然環境情報の提供や県民参加・協働の推進なども進めております。

「自然環境保全センター報告」は、このような業務から得られた研究成果、自然情報及び知見を、県民及び他の行政機関等に提供するとともに、記録・保存することを目的に作成しております。

今回発行する第6号では、永年にわたり県民協働による自然環境保全にご尽力され、また、丹沢大山で活動する自然環境保全に関するボランティア団体のネットワーク組織である「丹沢大山ボランティアネットワーク」の設立にも寄与されたNPO法人みろく山の会環境問題担当理事の有川百合子様から「私と丹沢の関わり - ゴミ問題から夏休み親子自然探検隊 - 」と題する特別寄稿をいただいたほか、調査・研究報告として、「2007年度 神奈川県二ホンジカ保護管理事業におけるモニタリング報告」、「丹沢山地におけるヤマビルの生息分布と生息環境」及び「清川村における野生鳥獣による農作物被害に関する調査報告」を、事業報告として、「西丹沢のエコツーリズムの推進」なども併せて紹介しております。

当センター本館は、来年度、神奈川県産の木材を使用した建物に生まれ変わります。研究棟改修という課題を残しつつも、森林・自然環境保全のコアセンター、丹沢大山のボランティア活動の拠点としてスタートすることとなります。今後とも森林を中心とした自然環境の保全と再生にかかわる業務や研究内容の充実に努めるとともに、成果や実績等につきましては、本報告書やホームページなどで迅速に紹介してまいりますので、ご意見をいただくとともに、業務等の参考としてご活用いただければ幸いです。

平成21年3月

神奈川県自然環境保全センター所長 岩崎和男